２．食のまちづくり拠点施設道の駅グリーンファーム館山の現状と課題について

平成２７年２月に策定された「たてやま食のまちづくり計画」に基づきスタートしたグリーンファーム館山の目的である経済効果や館山の認知度向上など総体的な地域活性化の現状と今後の発展における見通しにつきこの「計画」の基本方針に基づき質問致しました。

Ｑ１．　施設としての機能面・設備面・農園・運営面の現状と課題について

Ａ．　雨避け日差し避け設備の未設置、休憩場所の不足、売り場面積の狭小が課題であり、今後キッチンスタジオを活用したイートインスペースの確保と農産物等の売場活用を行う。農園の水はけについて暗渠管の布設を行う。農産物の少ない時期の対策として地域の農業者への個別訪問により信頼関係を構築し出荷促進をしている。

Ｑ２．　ＳＤＧｓの考え方から規格外作物を活用し、昨今の健康志向から注目を集めているスムージーを開発、販売することが出来ないか？

Ａ．　指定管理者と検討をする。

Ｑ３．　農業振興を目指す食のまちづくりに関連する今後の推進策は？

Ａ．　農産物ブランド向上セミナーを実施し参加者から得られた意見やアイデアをもとに今後の方向性を整理し順次実施する。農業者の生産状況や飲食店等のニーズを把握し、両者をつなげる役割を担う事で情報収集発信拠点として、農産物の利活用を促進する地域内流通の活性化を図る。

３．環境保全型農業の推進について

農薬の過剰使用による農地の劣化や生態系の破壊が問題となり、欧米では化学農薬の使用及びリスクを５０％削減し有機農業を 25%に拡大する事を目指しており、化学肥料も高騰し農業者の経営を圧迫していることから世界の潮流は有機農業に向かっています。更に化学肥料の元となるリンなど鉱物資源は有限である為、将来的には枯渇します。このことからも有機農業の普及は必然です。

また、いすみ市や木更津市では有機米１００％の学校給食を提供しており、全国的にも徐々に広がっています。

本市の取組と展望について質問をしました。

市からは、農業者にアンケートを実施したところ、「栽培に手間がかかる」、「収穫量が少ない」、「販路の確保が難しい」、「顕著な高齢化」などの理由から有機農業従事の希望が少ないが、先ず、有機農業普及に向けた理解を農業者と消費者双方に対し推進していきたいと答弁が有りました。

産業廃棄物となっている牛糞、鶏糞を活用する為の畜産業者と農業者をつなぐ仕組み作りや、子どもを自ら育てた有機栽培の食材で育てたいと都会から移住を希望する若い世代を取りこぼす事無いよう、定住に向けた支援を行うよう要望しました。

皆様からのご要望が実現しました！！

＜ 船形地区 側溝補修 ＞

側溝のカバーの劣化により、段差が生じ、転倒者も出ていた所一帯が、新しいカバーに変わり改善しました！

前

後